



芝小だより

第四月号

発行所 港区立芝小学校
 〒105-0014
 港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)



歴史の重みと新しさへの挑戦

校長 齋藤幸之介

今年の桜は三月中旬に満開の時期を迎え、しばらくするとその花びらは美しく風に吹かれました。そして今、少しずつ目立つようになつた葉はその色を徐々に深くし始めています。それは、子供たちがこれから一歩一歩確実にたくましく成長していく姿を想像させてくれます。

御子様の御入学並びに御進級、誠におめでとうございました。三七四名の子供たちは、本日より平成三〇年度の学校生活を始めました。子供たちの希望に胸をぐくませていく姿から、本年度の本校の教育活動が一層充実するであろうと、ご期待することともに、気持ちをさらに引き締めなければ、と肝に銘じているところであります。

今年度は、本校にとってとても重要な年です。一四〇周年を迎え、また新しい教育に挑戦するからです。

百四十年という重み

四月一日、私は芝商店街を歩いておりました。芝商店会の皆様、そして本校のPTAの方々にも多大なるお力添えをいただき、周年記念のフラッグを作っていていただきました。誠にありがたうございました。子供たちが寄せてくれたデザインから選ばれた作品がたなびくその様子からは、本校の歴史に対する誇りが伝わってきます。

本校は、明治二十二年の二月に設立されました。当時は、児童数五八名、教員は四名であったとされます。今日を迎

えるまで、戦禍による校舎の焼失や児童数の減少といったいくつかの危機的状況を乗り越えるために、本校を愛する地域の方々、深い御理解と御協力をくださった保護者の方々、そして私共の先輩の先生方が尽力されました。今、本校で子供たちと共に学校生活を送れることをとても幸せに思っていますが、これも今まで本校の教育に携わってくださった方々のおかげ、と心より感謝する次第です。

一四〇一四〇年、と言いつても、その時間の長さを実感を伴った説明ができる人は残念ながらいません。本校の歴史はその位重みのあるものであると、改めて感嘆します。私共教職員は、本年度在籍する子供たちと時間を共有しながら本校の歴史を確実に伝えていこう、と考えています。

港区立小学校のパイオニアとして

ー「研究パイロット校」の指定を受けてー

昨年の三月に、学校教育の基準となる学習指導要領が告示されました。二年後には新しい出発することになるとも言えます。本校でも、子供たちが未来に生きるための資質や能力を身に付けるために、学習指導要領を理解してしかなるべき準備をまいります。

本校は、港区教育委員会より平成三〇・三一年度の研究パイロット校の指定を受けました。研究パイロット校とは、「教育課題解決のための実践的な研究を先進的に行い、広く一般に研究成果を周知すること」と、港区における学校教育の質を高めることに寄与する「学校のこと」です。本校は、ICT教育を推進すべく、子供たちがタブレットを始めとするICT機器を積極的に活用しながら友達と学びを深められるよ

うにしていきたいです。研究パイロット校になったことで、校内の教育環境は整備される、という利点もあります。本校が研究パイロット校としての指定をされた理由として、教職員の取組が評価されたことも明示しておきたいと思えます。本校の教育活動に携わる真剣な姿が認められて「芝小学校ならば研究を深められる」と推薦されたことを、校長として素直に嬉しく思っています。

Festina Lente

ー多岐に亘るからゆっくりー

その他、本校の特色ある教育活動も例年通り行われます。もちろん、平素の学習活動も確実に進んでいます。昨年度末にお話をしましたが、例えば時間割等の工夫をして子供たちの様々な資質や能力の確実な定着に努めてまいります。様々な課題に対応しようとする、と、いつい急いでしまった成果が上からない場合も想定されます。そんなとき、私は本校第二七・二八代校長 榮健先生がかつて学校だよりにお書きになったFestina Lente (フエスティーナレント) というラテン語を思い出しています。「ゆっくりいそげ」というこの意味は、つい焦ってしまいそうな私共を諭してくれる表現であると思っています。そして、「できることを確実にやってみよう」と自身を落ち着かせることができます。私共教職員は、今年度この言葉を忘れずに教育活動に取り組んでいきます。

本年度も、地域の皆様、保護者及び御家族の皆様には多方面に亘る御理解と御協力を賜りたく存じます。ごつきようへお願い申し上げます。

